

ます。血流が改善するのは血管が広がるためですが、これは直接血圧を低下させる作用を持ち、心臓の負担も減らします。通常の入浴は心臓に対して少なからず負担をかけてしまいますが、炭酸泉の場合は心臓への負担が少なく、心臓の機能回復まで期待される入浴法であり、古来ヨーロッパでは“心臓の湯”として親しまれてきました。その他にも、自律神経の交感神経を抑制し、通常のお湯に比べても、高いリラクゼーション効果が得られます。また、炭酸泉は弱酸性であり、高い美肌効果も得られます（アストリゼン効果）。糖尿病の方は炭酸泉でインスリン抵抗性が改善し血糖値が下がり易くなるという効果や、からだの壊れたタンパク質を修復する「ヒートショックプロテイン」が増加するといった報告も見られます。そして、透析患者さんに多くみられる様々な下肢症状（下肢のつりや牽引痛、乾燥性の湿疹、乾癬など）も炭酸泉での改善が期待されます。

閉塞性動脈硬化症（ASO）に対する効果

このように、非常に様々な効果が期待される炭酸泉ですが、その中でも、名古屋共立病院では15年程前から、足の血管が動脈硬化で細くなり、血流障害を起こす閉塞性動脈硬化症（ASO）に対する炭酸泉治療を積極的に行ってきました。

ASOは、血流不足により重症化すれば足の組織が壊死し、切断しなければならなくなる怖い病気です。通常は切断をしなければいけない状態でも、炭酸泉の足浴を続けて行うことにより血流が改善した結果、足を切断しなくても済んだという例を非常に多く経験しております（図5）。

実際、68例のASO重症患者様で、下肢の切断を回避できた割合を調査した結果、83.1%の患者様が切断せずに済みましたので、炭酸泉の効果は非常に高いと言えます。